Y06a 高校理科必修科目に関するカリキュラム研究 (III)

縣秀彦, 日隈脩一郎 (国立天文台) ほか

本研究グループでは高等学校理科4領域が、現在はほぼ独立して指導されている一方、その内実は相互に関連しながら現代社会の問題に密接に関連していることを重視し、科学教育の意義・目的と現代社会における役割を再考し、生徒の課題発見と課題解決能力の育成を主眼とした総合的かつ基礎的な必修理科科目を構想し、実践・評価することを目的としている。

2023年12月に生徒と教員向けのアンケート調査を実施した。その結果、次の3点が判明した。(1) 次期学習指導要領改訂において、仮に共通基礎科目を設置する場合、物理・化学・生物・地学に含まれる基礎内容を扱う必要がある。(2) 生徒が学びたいのは「地球温暖化などの気候変動」、「ヒトの理解」、「宇宙の理解」、「感染症」等であった。理科離れを減らす意味でも、生徒の学びたい動機を考慮したカリキュラム編成が望まれる。(3) 2016年2月の日本学術会議からの提言「これからの高校理科教育のあり方」発出の際には、現職教員から共通基礎科目を設置することへの反対意見が、文部科学省に寄せられたが、アンケートの結果、7割に近い現職教員が自分の専門ではない基礎科目(2単位)をすでに受け持って指導している経験があり、6割を超える現職教員が共通基礎科目を指導することが可能であると回答した。以上のことを踏まえ、次期学習指導要領で実装可能なカリキュラム案を精査し、それらの実践・評価活動を継続中である。